

情報・システム研究機構教育研究評議会（令和元年度第1回）議事要旨

日 時：令和元年6月26日（水）10：00～12：10

場 所：情報・システム研究機構 会議室

出席者：岡田清孝評議員、栗原孝次評議員、徳田英幸評議員、鳥海光弘評議員、ベントン・キャロライン評議員、安成哲三評議員、藤井良一評議員（議長）、津田敏隆評議員、喜連川優評議員、椿広計評議員、坂口広志評議員、中村卓司評議員、花岡文雄評議員、藤山秋佐夫評議員、野木義史評議員（極地研）、伊藤聡評議員（統数研）、仁木宏典評議員（遺伝研）、

オブザーバー：鈴木久敏監事、相澤彰子情報研所長補佐

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認及び新委員の紹介があった。また、本会の規則の確認と併せて津田評議員を副議長に指名した。

議 事：

【審議事項】

（1）情報・システム研究機構教育研究評議会審議事項の付託等について

藤井議長より、資料1に基づき説明があり、付託事項を確認するとともに、共同研究に関する事及び大学院教育に関する事については、報告時に改善点について意見を頂くことについて了承された。

（2）令和2年度（2020年度）概算要求について

坂口評議員より、資料2-1～2-4に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。また、軽微な修正については機構長一任とすることが併せて了承された。

（3）平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

津田評議員より、資料3-1～3-3に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。また、軽微な修正については機構長一任とすることが併せて了承された。

<意見概要>

- 遺伝研の「注目すべき事項」として「テニユアトラックとしての新分野創造センター准教授がテニユア教授職を取得」が挙げられているが、他のセンターでも同様の事例はあるのか。

- このセンターの准教授以外には適用していない。
- 他の准教授についてもこのような形でプレッシャーをかけてステップアップを促進すべきではないか。
- 全ての研究所・大学等にも当てはまることであり、今後の課題として捉えたい。
- 年俸制が普及してだいぶ経つが、研究者の流動性は高まったか、研究者は非常に活発にチャレンジングな研究に移れたか、今後の定年年齢の引き上げといった問題がある中、年俸制適用者が20%を超えたからIV評価、ということの良いのか。
- ここでは、国の施策に対応していることの評価をして頂くものとなっている。しかしながら、ご指摘のとおり、流動性については統計的に明確になっていない。新年俸制でも流動性を担保するためには、組織を移った際に損することがないように、なるべく同じようなシステムを作る必要がある。

(4) 情報・システム研究機構長選考会議委員の選出について

藤井議長より、資料4-1、4-2に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

【報告事項】

(1) 研究教育職員に係る人事異動について

藤井議長より、資料5に基づき報告があった。

(2) 共同研究及び大学院教育の実施について

中村評議員、喜連川評議員、椿評議員、花岡評議員、藤山評議員より、資料6に基づき、各研究所・施設の共同研究及び大学院教育の実施状況について報告があった。

<意見概要>

- 全体的に採択率が高くて、金額は多くないが、幅広く共同研究をしたいと考えているのか。
- プログラムによってそういうものと、そうでないものの2通りがある。
- 短期間滞在が推奨されているが、何か対応しているか。
- 短期滞在中に費用を出す仕組みがあり、遺伝研及び統数研にはゲストハウスを設けている。
- 研究所に短期滞在中に来られる研究者の所属組織に、滞在中の代員の雇用費を支

援するシステムは非常に良い。

- 共同利用機関を大学のコミュニティーが利用することで共同研究としているが、その場合の機構や機関側の成果として形に残るようにはなっているのか。複数の共同研究を進めており、大学共同利用機関の教員や研究者の負担も相応にあるはず。

→ まだ完成はしていないが、共同利用・共同研究高度化支援システムを開発しており、機構の活動としてトレースすることが出来るよう目指している。共同利用・共同研究を通じてネットワークが形成されて共著論文につながっているが、その見える化は課題である。

(3) 平成 30 年度決算について

坂口委員より、資料 7-1～7-6 に基づき報告があった。

(4) 教育研究評議会委員からの提言等とその対応状況等（平成 30 年度）

藤井議長より、資料 8 に基づき報告があった。

【その他】

(1) 大学共同利用機関改革に関する作業部会について

藤井議長より資料 9-1～9-4 に基づき報告があった。

(2) 研究所活動状況報告（データサイエンス共同利用基盤施設）

藤山委員より、資料 10 に基づきデータサイエンス共同利用基盤施設の活動状況について報告があった。

<意見概要>

- データサイエンティスト協会等もデータサイエンティストに必要な能力にチェックしているようなので、情報を得て教育に重点を置くと良いのではないかと。
 - 総研大のカリキュラムの中にもデータサイエンティストとして必要な能力といったことを盛り込むと良いのではないかと。
- 分野ごとのモジュールを意識して整理し直す動きがある。

(次回の教育研究評議会の日程について)

- ・ 次回の教育研究評議会は、10月21日（月）10：00から、情報・システム研究機構会議室にて開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・情報・システム研究機構教育研究評議会評議員名簿
- ・情報・システム研究機構教育研究評議会規則
- ・前回議事要旨
- ・情報・システム研究機構教育研究評議会審議事項の付託等について・・・【資料 1】
- ・令和 2 年度（2020 年度）概算要求 機能強化経費「機能強化促進分等」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 2-1】
- ・令和 2 年度（2020 年度）概算要求 大規模学術フロンティア促進事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 2-2】
- ・令和 2 年度（2020 年度）概算要求 共通政策課題（基盤的設備等整備分）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 2-3】
- ・令和 2 年度（2020 年度）概算要求 施設整備費要求事項について・・・【資料 2-4】
- ・平成 30 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）・・・・・・・・・・【資料 3-1】
- ・「注目すべき事項」候補一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 3-2】
- ・平成 30 事業年度に係る業務の実績報告書（説明資料）・・・・・・・・・・【資料 3-3】
- ・情報・システム研究機構長選考会議規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 4-1】
- ・令和元年度情報・システム研究機構長選考会議構成員（案）・・・・・・・・・・【資料 4-2】
- ・研究教育職員に係る人事異動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 5】
- ・共同研究及び大学院教育の実施について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 6】
- ・平成 30 事業年度財務諸表（簡易版）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7-1】
- ・平成 30 事業年度財務諸表・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7-2】
- ・平成 30 事業年度事業報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7-3】
- ・平成 30 事業年度決算報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7-4】
- ・独立監査人の監査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7-5】
- ・監査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7-6】
- ・教育研究評議会評議員からの提言等とその対応状況等（平成 30 年度）・・・【資料 8】
- ・第 4 期中期目標における大学共同利用機関の在り方について（審議のまとめ）
（抄）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 9-1】
- ・第 10 期大学共同利用機関改革に関する作業部会における主な調査審議事項
（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 9-2】
- ・大学共同利用機関改革に関する作業部会における当面の主な検討スケジュール
（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 9-3】
- ・本日も議論いただきたい論点（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 9-4】
- ・研究所活動状況報告（データサイエンス共同利用基盤施設）・・・・・・・・・・【資料 10】